

オラ（俺ら）が使った、聞いた、方言（俗語）、日光弁（訛り）言葉集

作成 2020・05・05 玄梅正明

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が全国に拡大するほどの重大事態で、不要不急の外出自粛の要請が叫ばれている。こんな時なので暇にあかして、生まれも育ちも日光でこれまで78年間、子供のうちから使ってきた、耳にした、方言や日光弁（訛り）をまとめてみようと思った。今までストックしておいたものを書き出したら、たくさんあることに驚いた次第です。皆さんも耳にした言葉もあるのではないのでしょうか？（今でも訛りが出てしまう78歳の私を標準として記入してあることをご了承ください。イントネーションの使われ方によって聞こえ方に差があると思います。）

(あ)

あの <u>あいだっこ</u> にある・・	間（あいだ）	そこに <u>あんべな</u>	有るよ
それは <u>あんまりだ</u>	あまりにも	<u>あんこ</u> が一杯の草餅	餡
<u>あがりっぱな</u> に物置くな	入口	箱のなかに <u>あんじゃないか</u>	有る
このゲームは <u>あきねー</u> な	飽きない	家に <u>あんだんべか？</u>	有るのかしら
今日の空は <u>あけえな</u>	赤い	今日は <u>あんべわりい</u>	具合が悪い
足ぶつけて <u>あいてえなー</u>	痛い	この <u>あんぼんたん</u>	お馬鹿さん
<u>あさっぱら</u> から文句付けるな	朝	隣の <u>あんに</u>	兄
あそこの <u>あきねえ</u> は安い	商い	お前の <u>あんね</u> は美人だ	姉
<u>あっち</u> へ行って	向こう	これは <u>あんまり</u> よくない	あまりにも
〇〇ちゃん <u>あすんびや</u>	遊ぼう	このスイカは <u>あめえな</u>	甘い
早く <u>あらえまて</u> して	食器洗い（お勝手仕事）	<u>あのない</u> これ貸してくれない	あのー
お前の仕事は <u>あらっぼえ</u>	荒々しい	借りた品物 <u>あんがと</u>	ありがとう
<u>あたりめー</u> なことできない	当たり前、当然な事	あそこに <u>あんびゃー</u>	あるだろう
宝くじが <u>あたんね</u>	当たらない	<u>あつぷ</u>	幼児を叱る
<u>あてっこすり</u> 言うなよ	皮肉	今日の <u>あてがいぶち</u> は少しだ	盛分け
あの <u>あまっちょ</u> は強いぞ	女の子	同じもの <u>あっか</u>	有るかい

(い)

直ぐに <u>いぐ・いごう</u>	行く・行こうよ	その <u>いしっころ</u> どかせ	石
この品物 <u>いかんべえ</u>	良いだろう	そんなもの <u>いんねー</u>	いらない
そこの <u>いたっぺら</u> もってこい	板	まったく <u>いじやける</u>	腹が立つ
あそこへ <u>いってみっぺ</u>	行ってみる	<u>いっき</u> にいくぞー	休まずに

(う)

汚いものは <u>うっちゃる</u>	捨てる	お前の仕事は <u>うんめえな</u>	上手だな
お前は <u>うそっこ</u> きだ	嘘つき	お前の <u>うてっき</u> り見せつけろ	能力の限り
このお菓子 <u>うっとこれ</u>	売ってください	お前 <u>うてっき</u> きだな	能力がある
<u>うちさ</u> こいや	我家に来なさい		

(え)

早く済んで <u>えがった</u>	良かった	それじゃ <u>えんぴやー</u>	行こう
一緒に <u>えぐべや</u>	一緒に行こう	道路の真ん中で <u>えんこ</u> した	故障・止まる
今日は <u>えけねー</u>	行かない	体を動かすのも <u>えんがみる</u>	ひどい目にあう, 苦労する
<u>えっと</u> き待ってくれ	暫時		

(お)

そろそろ <u>おきんぴやー</u>	起きよう	<u>おばやん</u> 気をつけて	おばあさん
またお前は <u>おこられた</u>	叱られる	<u>おらんち</u> へ来いよ	私の家
穴に <u>おっこちる</u>	落ちる	畑の大根 <u>おろぬき</u> して	間引き
アメ <u>おこれ</u>	ください	<u>おんなじ</u> こと言わせんな	同じ
<u>おこんねー</u> から話せ	叱らない	余計な <u>おちゃっぺ</u> するな	喋る・多弁
今日は <u>おしゃらく</u> して	着飾る	<u>おてんとさま</u> に手を合わせ	太陽
その <u>おじやん</u> 危ないよ	お爺さん	<u>おともり</u> して駄賃をもらう	子守
自分の <u>おっかー</u>	母、妻	<u>おにむし</u> 捕った	クワガタ (虫)
今朝の <u>おつけ</u> は薄味だ	味噌汁		

(か)

<u>かえろ</u> っばむしり	おおばこ (草)	他人のことを <u>かけなす</u> な	非難する
そんなに強く <u>かっちねる</u> な	つねる	手袋 <u>かてっぼ</u> 失くした	片方
そんなに <u>がしょうき</u> するな	強く・無理する	<u>かわりばんこ</u> に行け	代わるがわる
土を <u>かっぱく</u>	はがす・かき出す	棒で <u>かんます</u>	かき混ぜる
そこは <u>かたっつら</u> だけで良い	片側・片面	わからないと <u>かっくらす</u>	叩く

(き)

人の話を <u>きけーや</u>	聞きなさい	いい <u>きもん</u> 着てる	着物
<u>きどころね</u> すると風邪ひく	仮寝		

(く)

これ <u>くうびや</u>	食べよう	急いで <u>くうんべー</u>	食べよう
<u>くちべろ</u> から血がでている	唇	それ <u>くんろ</u>	ください
可哀そうだから <u>くっちゃす</u> な	踏み潰す	美味いから <u>くわっせ</u>	食べなさい
<u>くれえ</u> 夜道だ	暗い・黒い	これ <u>くれっか</u>	もらえるか・くれるか
これ <u>くれっから</u>	呉れよう・あげます	これ <u>くれっか</u>	下さい
これ <u>くれっか</u>	下さい		

(け)

夜道を <u>けえろ</u>	帰ろう	いい加減に <u>けえれや</u>	帰れ
<u>ケエロ</u> がなく	蛙	<u>けえろっぱ</u>	おおばこ(草)
早く <u>けえんね</u> と	帰らないと		

(こ)

今日の登山は <u>こえー</u> かった。	くたびれた	このかつ丼 <u>こてらんね</u> 味だ	たまらない
今日の映画は <u>こえー</u> ぞ!	恐ろしい	よく <u>こじゃす</u>	砕く
このゴミは特に <u>こきたねー</u>	特別汚い	まったく <u>こせやける</u> 人だ	意地がやける
また同じこと <u>こく</u>	言う	このお菓子 <u>こそっぱい</u>	粗雑
この <u>こけやろ</u> が	愚か者	もっと側に <u>こねーか</u>	来ないか
この <u>こーこ</u> よく漬いているね	漬物	こっちに <u>こーや</u>	来たまえ
そんなに <u>こごまる</u> ことはない	丸める	今日は体が <u>こわい</u>	疲れた
雨が降ってきた <u>こーもり</u> さす	傘をさす	今日の映画は <u>こわかった</u>	恐ろしかった
		<u>これぼっち</u>	僅かなこと

(さ)

それじゃ <u>さいな</u>	さようなら	それは <u>されっかまねー</u>	無関心
今夜は <u>さみー</u> な	寒い	<u>さんだらぼっち</u>	俵の丸蓋
<u>さんざっぱら</u> 遊んだ	十分に・十分に		

(し)

猫が <u>しっかく</u>	引っかく	そんなこと <u>しってかや</u>	知るもんか
そんな言葉 <u>しっかや</u>	知らない	その人なら <u>しってら</u>	知っている
お土産を <u>しっかり</u> 頂く	沢山に	ズボンの後ろの <u>しっぱね</u>	泥はね
あの <u>しと</u>	人	<u>しゃくご</u> 持って来い	物差し
菜っ葉が <u>しなびる</u>	しおれる	俺の <u>しゃっぱ</u>	帽子
花が <u>しもげる</u>	凍る・霜にあたる	若いくせに <u>しゃらくせい</u>	生意気
<u>しもつかれ</u>	郷土食の名前	忘れた? <u>しょうがねー</u> な	仕方ない
隣組で <u>じゃんぼん</u>	葬式	<u>しゃがみこむ</u>	座りこむ
〇〇 <u>したっけ</u>	したのか、そうしたら	それは <u>しゃーんめ</u>	仕方ない

(す)

<u>すっかんぼ</u>	イタドリ(草)	<u>すっころび</u>	勢いよく転ぶ
<u>すまっこ</u> に隠れる	片隅	〇〇 <u>すっぺ</u>	何々しよう
そんなこと <u>すんな</u>	しない・やらない		

(せ)

お前はせせっかしい
せこいことするなよ

せわしい
するい

せねもらってこい

お金・銭

(そ)

そーだない
そーだっぺ
そーだにゃ

そうですね (あいづち)
そうでしょう
そうだね (返事)

そりゃないよ
そんでもいいか?
そーだんべ

それは
それでも
そうでしょう

(た)

だいじか?
たけうんまあそび
たっけんぼを振り回すな
夕方戸をたてる

大丈夫
竹馬
竹の棒
閉める

そうだんびゃ
そうだんべ
たまがすなよ
急に出てきてたまげた

だろう (あいづち)
だろう (あいづち)
驚かす
驚く

(ち)

ちくばかり言う
足袋がちっこい
川の水ちみて
寒いからちゃんちゃんこ着な
下駄の歯がちんかぱんか

嘘・偽り
小さい
冷たい
綿入れ袖なし・現在のベスト
高さの差、平行でない

ちちいじり
ちっとまって
ちよい右へ
網でちよんま捕まえろ

土
少し
少し
蝶々

(つ)

つぼっこにはまる
前の車をつっこす

穴
追い越す

もう少しつぼめる
火をつんもす

閉める
燃やす

(て)

畑からてえこんぬいてこい
てこまつやろー
そのくらいてーじ
まったくのてくのぼう

大根
でたらめ
大丈夫
無能者

お前はでれすけか
早くてろ
野良仕事はてっこしてやる
根につまずいててんながる

馬鹿
出なさい
手甲
転ぶ

(と)

早くそこをどけ
わかったどくよ
どしてもだめか?

除ける、邪魔
退ける、除ける
どうしても

俺がとっか
とばくちに物置くな
からいとんがらし

取ろうか
入口
唐辛子

このとーむぎ初物だよ

とうもろこし

とんぼ閉めろ

戸

(な)

このなっぱ甘みがある

菜

明日までになすから

返済する

お前のなめーは？

名前

この箱なんぼだい

いくらですか

とーとおんなじこという

何回も、毎回

(に)

この薬にげー

苦い

邪魔だからにけえに行け

二階

鍋でにっぺ

煮る

(ぬ)

この場所はぬかす

間引きする、除く

この石はぬかす

排除する、退ける

お前はなにぬかす

放言する・云う

リレーで前の人ぬかせ

追い越す

(ね)

お金なんてねえ

無い

うどん粉をねっちゃす

練りつぶす

ポケットに入ってねえか

無いか

今夜は早くねべー

寝よう

入ってねえな

無いね

(の)

駆け足がのれーな

遅いな

のんのさまにお参りする

神様・仏様

(は)

部屋にはいんぜ

入るよ

そんなにはしゃぐなよ

騒ぎ・テンション上がる

寒いからこたつにはいんびゃ

入ろう

橋がはすっかけだ

斜め

物をもらう時ははしっけい

敏速・速い

待ってっからははやっこー

早く来い

はったりばかり言って

嘘・大げさ

バチあたり

神仏の罰

賽銭泥はばちがатар

大悪、大罪

(ひ)

そのひもっこで縛れ

紐

ひとつきりまってくれ

少しの間

足でひしゃぐ

つぶす

皮をひんむく

剥ぎ取る

車座にびたまる

座る・あぐらをかく

ひわすら

火遊び

ぴしゃんこ

つぶれる

ひっくるむ

包む

ひどいめにあう

散々な

(ふ)

物を <u>ふっこ</u> とす	落とす	<u>ふす</u> くれる	ふてくされる
物を <u>ふん</u> じゃす	踏み潰す	<u>ふっと</u> ばす	殴る
障子を <u>ふつつ</u> あく	裂く、破く	<u>ふん</u> なげる	投げ捨てる
<u>ふん</u> だって	それでも	お前と <u>ふんぬ</u> きだ	そっくり (似ている)
足で <u>ふんぬ</u> きやがって	開ける	<u>ふん</u> まげる	曲げる
<u>ふっ</u> ちゃす	打ちのめす	所かまわず <u>ふち</u> かる	座る
火が <u>ふた</u> かる	燃え上がる	<u>ふっ</u> からす	殴る

(へ)

<u>へ</u> でなし	でたらめ	<u>へっ</u> ぽこ	ろくでなし
<u>べ</u> ったら	田楽	<u>へん</u> ちくりん	変わり者
<u>べ</u> ったり	仲が良い	<u>へっ</u> ぴりむし	カメムシ (臭いがきつい)

(ほ)

唾を <u>ほ</u> きだす	吐き出す	穴に <u>ほっ</u> こちる	落ちる
木の芽が <u>ほ</u> きる	芽が伸びる	崖から <u>ほっ</u> ことす	落とす
<u>ほ</u> そっこ	細紐	<u>ほっ</u> ぺた	頬
今度は <u>ほん</u> こだよ	本音	地面を <u>ほっ</u> かじる	掘る
物を <u>ほん</u> なげる	投げ捨てる	木の箱を <u>ほっ</u> こす	壊す

(ま)

<u>まさ</u> か	流石、本当に	<u>まっ</u> と欲しい	もっと
<u>まさ</u> か	非常に	<u>まっ</u> つぐ行けば	真っ直ぐ
<u>まげ</u> っぺ	仲間に入れる	あなたの話は <u>まめ</u> っちい	こまごましい、細かい
<u>まん</u> ず	まず		

(み)

紐が <u>み</u> じけー	短い	あなたは <u>み</u> みっちい	ケチ、心が小さい
-----------------	----	--------------------	----------

(む)

みかんを <u>む</u> ぎる	もぎとる	<u>むか</u> っぱらたつな	苛立つ
<u>むて</u> っつきになる	向こう見ず		

(め)

物をめっける

みつける

これはめっけもんだ

掘出し物

物がめっかる

見つかる

めかごができた

目の周りのおでき

物がめっかんね

見つからない

めめずは気持ち悪い

ミミズ

(も)

もじくる

もみくちやにする

物ももらいたかねー

いらない

もじる

もみくちや

隣のもこさま

婿

ももひき

股引き、冬のはき物

(や)

やっこい

柔らかい

やっぱし

矢張り

やっこすつとこ

辛うじて

やなさって

明々後日

やんねべー

やらないだろう

やだんべ

嫌

やんべー

やろう、する

やべー・ヤバイ

危険、危ない

やんびやか

やってみるか

(ゆ)

ゆだれ

よだれ

ゆんべ

昨夜

ゆびはめ

指輪

(よ)

よかね

良くない、悪い

よばれる

招かれる

よかっぺ

良いだろう

よめーごと

世迷い言

よかんびゃー

良かろう

よっほど

余ほど

よっぴて

夜通し

(わ)

わすらする

いたすら、おもちゃにする

わっかく

割る

わっか

輪

わりわり

悪かった、謝罪

わりかった

悪かった

(ん)

んだって

それでも

思い出に残る方言（日光弁）4例

*昭和33年15歳、全寮制の生徒だった時、週末の土曜日（当時は休日が日曜のみだった）に自宅に帰る際に必ず厳しい生徒監の前で、行先を報告することが決まりだった。・・・「家^{いえ}に行ってきます」または「家^{うち}へ行ってきます」というのが正しいが、私は、方言の「家^{いえ}さ行ってきます」と言うと許可が下りず、報告順列の最後に回されてしまう。同様の旧友が何人かいた。また同じ言葉で何度も言うがなかなか許可が下りない。なぜだろうと許可が下りた人の言葉を聞き耳すると「家に・・・や 家へ・・・」と言っていることがわかり、「家^{うち}に行ってきます」と言うとすんなり許可が出た。以来、「〇〇さ」を標準語の「〇〇に」したことを思い出す。

*子供たちの自然ガイドを行っているが、時々方言で説明することが度々ある。湯川沿いにみられる男体山の溶岩が水流の浸食によってできた「罎^{おうけつ}穴＝ポットホール・かめあな」である。その出来た過程の説明時、何気なく「水流によって・・・」を「水のかんましによって・・・」と説明してしまった。先生が顎をひねっているのに気づきあわてて標準語の「水流によって」と説明し直ししたことがあった。あとで先生と大笑いしたことがある。

*都会の子供をガイドした時、急な雨が降り出し、通常だと雨カップやレインコート（傘は前後の生徒をついたりするため危険なので）を着用させるのだが、突然の雨だったので「傘を差してもよい」を「コウモリ差してもいいよ」と、指示したが誰一人傘をさす子供はいなかった。（笑い）・・・日光の人は良く使う方言でもある。後に、先生と子供たちに聞いてみたら初めて聞く言葉だったのでわからなかつと笑いあった。

*東京に転勤して直ぐ、ある飲み屋での歓談中、都会人のつもりで「そうだろう」「そうだろう」と相づちを求めて話しているうちに最後は「そうだんべ」と、なっけと大笑いされたことがあった。

*二十数年前の現役中のことであるが、三度目の工事受注商談で、ある大手会社の部長さんと面談があり、当方の上司に同行した時のことである。なかなかまとまらなかった商談が、私のずうずう弁（日光弁）によって突然の大きな工事の受注が決まったことがあった。

そのいきさつは、お客様と話の途中で、登山の話題となって面白おかしくその説明に私が入った時、突然、君はどこの出（出身）なのかと問われ、「栃木県の日光です」と訛りのある日光弁で返答したら、お客様の部長は、おれは「茨城の出だ」と同じような訛り言葉が返ってきて、「君の訛り言葉が気に入った、隣の県でもあることと訛りも似ていることから、この商談は成立だ」となった。・・・「日光弁」がこんなところで生きることにはびっくりした次第である。

このほかにも忘れてしまった方言言葉がまだまだあると思います。

読んでいただいた方たちの中には、聞いたことがある、喋ったことがある。と思い出すことがあると思います。

コロナ騒動の最中、自粛の連休を活用してまとめ上げができました。皆様に読んでいただけたら幸甚です。皆様のご意見や事例などありましたら玄梅までご連絡ください。

新型コロナウイルス感染拡大の終息が一日でも早く来ることを願っている一人です。